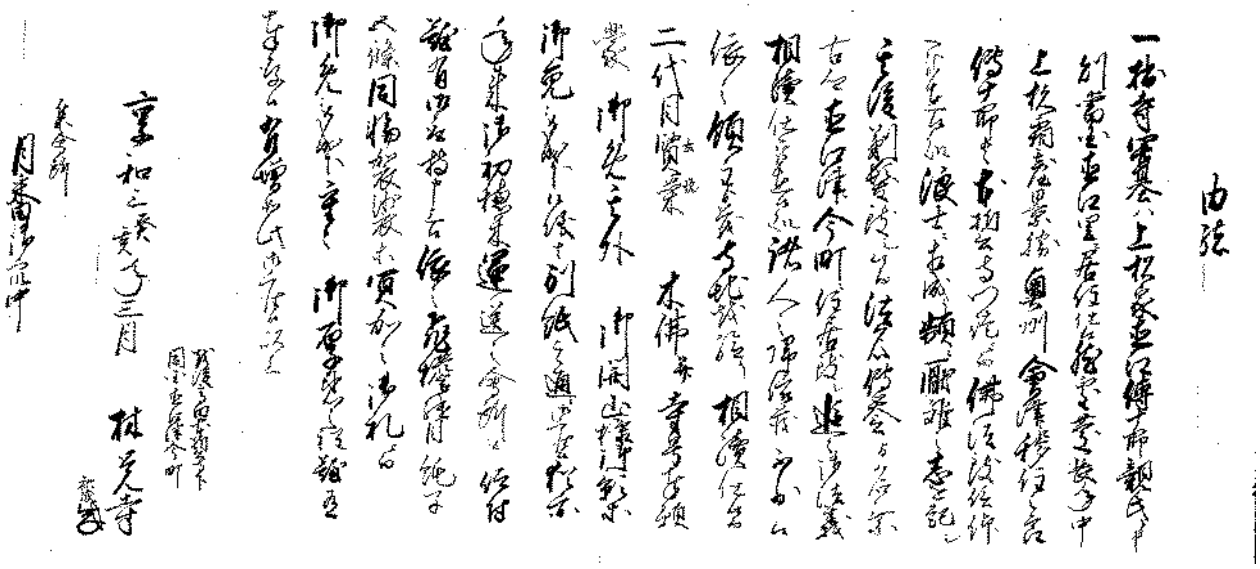
林覚寺文書目録解題

享和３年(1803)書上げの「由緒」によると、林覚寺の開基は上杉家直江伝十郎親氏で、「当国直江の里」に居住していた。ところが、慶長年中上杉景勝が奥州会津へ移ったとき、本誓寺門徒であった伝十郎は景勝に従うことなく、浪人となり、その後、剃髪出家して法名「伝誉」と名乗り、直江津今町に住居した。諸人の帰依があったため領主より寺地を拝領し、現在にいたるという。

本目録には、この由緒書のほか寛文４年(1664)の「御開山様御礼外目録」から明治 39 年(1906)の(火災見舞金送り状)まで 141 点が収録されている。



「由緒」集会所月番衆中←林覚寺祐成
(享和３年３月)